

児童デイサービスNEWS

どうなる児童デイ

指定居宅支援事業者等集団指導が7月3日に行われ、10月からの新たな障害福祉の概要説明がありました。

サービスは個別に支給決定が行われる「障害福祉サービス」と、市町村が柔軟に実施対応する「地域生活支援事業」に大別されます。

「障害福祉サービス」では、ホームヘルプなどの内、重度の肢体不自由者には「重度訪問介護」「重度障害者等包括支援」の別枠で支援を行います。

サービス管理責任者の配置・・・

新たに各分野に「サービス管理責任者」の配置が必要となり、児童デイサービスにも配置することとなりました。資格要件も実務経験（3年以上）と研修を受けることなど今の現場では満たない現状もあり、経過措置（平成19年末までに研修受講）はあるものの緊急の課題を残しています。

今のところ、まごころの児童デイは一宮市の事業になるであろう「経過的デイサービス事業」として継続することになりそうです。この事業になると、給付金は2割以上カットされ、継続困難な事業と言えるでしょう。

児童デイに出張指導

8月17日（木）13時～20時
障害者発達支援センターの職員さんによる出張指導があります。

お子さんの事で悩んでいらっしゃる点がございましたら、ご利用ください。時間等のお問い合わせはまごころへ。

内容

- ・障害について基礎的なお話
- ・家族の方との個別懇談
- ・デイサービス中の個別指導
- ・報告会

熱中症にご用心！

高温多湿のところでも長時間過ごすと、体内の熱が逃げず体がオーバーヒートして脱水状態に陥ってしまいます。その結果、けいれんやめまい・疲労感・頭痛・吐きけなど不快症状を招きます。

のどが渇く前に水分を補う・・・

高齢者はのどの渇きを感じにくく、手遅れになる恐れがあります。舌や唇がちょっと乾いていると感じたり、汗を少しでもかいたりしたあとは、速やかに水分の補給が必要です。

熱中症の症状が出たら体を冷やす・・・

冷房の効いた部屋に移って安静にする。衣服をゆるめて、冷たい水で湿らせたタオルで、わきの下や太もものつけ根を冷やす。

少量の塩と砂糖を加えた水か、水で二倍に薄めたスポーツドリンクを補給します。

訪問介護適正化事業

訪問介護適正化事業について・・・

一宮市では平成18年度の新規事業に国保連合会の適正化システムの活用として、介護サービスの信頼性を高める制度を確立。訪問介護の実施状況を把握することを目的に、利用者宅へカードリーダーという読み取り機を設置し、ヘルパーが訪問時と終了時に専用カードを通すことにより、介護時間データが市に送信される。

設置対象者は独居・高齢者のみの世帯・昼間独居の世帯の500世帯が無作為に選ばれ、本人、家族に理解協力の上設置される。実施は11月1日からの予定。

通話料は無料。消費電力1日1.5円は利用者負担となる。設置に対する特別な工事はないが、住環境により設置できないところもある。

市内には1300世帯の対象者がおり、今回は認知症の利用者については対象外になっている。

このシステムが介護現場の混乱とならないようにしたいもの。サービス事業所は真の適正化と信頼関係の確立を図るために努力しなければならない。

利用者のメリットとしては次のような事が言われている

- ・サービスの実施状況の正確な把握・管理
- ・介護報酬算定ミス防止策



カードリーダー

ミニデイだより



孫のような

青少年等ボランティア福祉体験学習で中学校の女生徒さんたちが今年も来て下さいました。利用者さんをお迎えの時は、少し緊張気味でしたが、お茶とおやつを出すお手伝いの時、利用者さんからは「どこの学校やね。何年生だね。」などと話されるうちに緊張もほぐれてきました。

十代の若さが満ち溢れいつもより一層明るい雰囲気になり、一緒に和紙に字を書いたり、絵のお手伝いをしたり。90歳のFさんは得意の曲をキーボードで披露。「すごい！」と生徒たちはびっくり。「あんたも弾いてみて。」ピアノの先生が夢という彼女は、はにかみながら「トルコ行進曲」を見事に演奏。今度はFさんが「すごいね！頑張ってよ。」と励まされました。

昼食は手巻きずし。「具は何をいれますか。」「きゅうりとえびを入れてね。」利用者さんと生徒さんが仲良く手作り。大きなおにぎりの様なおすしの出来上がり。「おいしい。今度はごはんを少しにするといいよ。」とアドバイス。

核家族の家庭で育っている生徒さん達は、高齢の方と接する機会がなく、しかも、大勢で食事をするということが少ない様です。おひとり暮らしの方も同じ。「今日は特別うまいなあ。」とTさん。

自分のお孫さんと重ね合うのかいつも静かなIさんは「孫がね、合気道で県代表になったよ。」となめらかに話されました。「私も息子もテニス部。孫もテニス部で入賞したよ。」とKさん。

大正、昭和、平成3世代交流の楽しい会話がいつまでも続きました。

ふれあいサロンだより

多くの地域のみなさんの利用があります。先日は17名で、にぎやかになりました。「ここへ来ておしゃべりするのが元気の元」とHさん
小木曾利子さんのご指導のPATCHワークも次々と作品が出来上がっています。要らなくなった風呂敷や布で素敵な小物入れが。男性の利用者さんも針を持っておしゃべりをしながら・・・

歌とお話など自由に集っています。みなさんも一度お立ち寄り下さい。
毎週木曜日午前10時から12時
(広場使用料100円)

心づれづれ

題字/澤田清敏さん

代表 諫山和敏

私は長男をカブスカウトに入団させて以来、スカウト活動に係わってきました。スカウト活動はこどもの年齢によって部門が設定されています。

1. 6歳～8歳(ビーバー部門)
この年代の子ども達は仲間との遊びが主で兄弟や近所の子ども達と集まっているうちに仲間とのコミュニケーションや自分の立場を身につけていく。
2. 8歳～11歳(カブ部門)
5, 6名の集団で行動する年代です。後輩が集団に入るにつれて、リーダー的存在「ガキ大将」が現れ、指導力の芽生えの時期ともいえる。
3. 11歳～15歳(ボーイ部門)
小学校高学年から中学生になる日常の仲間が目的を持って行動するようになります。そして目的達成の為に一人ひとりの任務を分担しようとする。
4. 15歳～19歳(ベンチャー部門)
この年代になると仲間集団というよりパートナーあるいは語り合える友だちを求めようになる。自分で考える力や解決する力を身につける年代でもある。
5. 18歳～(ローバー部門)
今まで培ってきた経験・能力を発展させ、より広い世界へと突き進んでいく年代です。

多くのスカウトたちは年代に応じた課題を体験活動を通じて取り組んでいます。

しかしながら、子どもたちの意識の変化か、スカウトたちは減少する一方で、歯止めがかからない状態です。

障がいを持つ児童に限らず多くの子どもたちが遊び場を追われ、時間に余裕がなく、集団での経験をする機会がさらに失われつつあることに憂いを禁じえません。



9月の定例会後普通救命講習

9月3日(日)、10日(日)の2回にわたって普通救命講習会を一宮市消防本部3階において開催します。

3時間にわたる実践的講習です。AED講習もありますので、ワーカーさんは是非ご出席ください。3日か10日のうちどちらか1日を受講していただきます。

AEDの取り扱い講習もやります。
AED(自動体外式除細動器)とは、心臓の心室が小刻みに震え、全身に血液を送ることができなくなる心室細動等の致死性の不整脈の状態を、心臓に電気ショックを与えることにより、正常な状態に戻す器械です。平成16年7月から一般市民による使用が認められました。